

小学生の景観色彩教育への自治体の取り組み事例

Action example of the local government to the landscape color education of the primary schoolchild

杉山朗子 Akiko Sugiyama 株式会社 日本カラーデザ Nippon Color & Design Research
イン研究所 Institute Ink

Keywords: 景観色彩教育, 小学生, 自治体.

1. はじめに

景観法が平成16年に制定されて10年以上経過したが、その中で色彩に関しては数値基準で規制する仕組みが一般的に広がったが、「景観」という考え方および色彩に対する関心が高まったとはいえない状態のままである。一般向けの景観色彩のセミナーなどを実施すると、アンケートの回答に必ず、このようなセミナーが開かれていることはこれまで知らなかった。もっと広報してほしいなどというように、関心がある人にさえ情報が届かない状況であったり、景観と色彩というテーマがあることもなかなか知られていなかったりという実態であろう。

しかしながら、その様な状況の中、各地で様々な取り組みがなされている。今回紹介する事例は2015年に立川市が実施した小学校での景観色彩教育である。東京都立川市は平成24年7月1日に景観行政団体となり、同年10月1日には景観計画の運用を始めた。それに伴い、市民向けの景観セミナーを実施してきたが、平成27年度の取り組みとして小学生向けの景観教育も試みた。小学6年生を対象とし、講義→デザイン企画→発表・投票による選定→ペンキ塗り実施、という流れで、考え方を学び、自分たちで企画し、自分たちで実際に塗り替えるという構成の特別授業である。「景観」という捉え方と「色彩の検討手法」の一つを理解し、「自分たちで考えてデザインする」ことを習得してもらい狙いである。小学生にとっては、卒業に際して母校に残す記念となる校門のデザイン作成という重要な機会であった。

今回の発表は、講義に携わった立場から、小学生は「景観」という考え方を理解し、自分たちで考える力があることを確信し、景観色彩について自治体や教育機関での取り組みを推奨するために、事例紹介を行うものである。

校舎の改修の機会を捉え、卒業を控えた6年生

が母校に記念として正門改修を実施するにあたって、全体の景観を考慮し実際に参加して塗替えまで行った記録である。

2. 実施の方法

(1) 取り組み体制

この授業は、立川市の都市計画課及び施設課と教育委員会、小学校の校長及び6年生の担任という多くの人々の理解と協力によって、実施された。また、校舎の大規模改修という機会の中で、工事関係者協力により、素材準備、塗装体験が実施できた。

(2) 景観色彩教育プログラムのフロー

景観教育プログラムは以下のように3日間の中で、4つのステップによって構成した。」

	項目	内容
1	講義	まち並みのこと、色のことを学ぶ / スライドを用いた講義
2	ワークショップ	みんなそれぞれで校門のイメージをつくる / 各自プリントを用い色鉛筆で色を塗ってイメージを考案
3	イメージの決定	実施案の選択 / 各自が考えた案を代表的なタイプとりまとめ、意見交換後、選択
4	塗装体験	実施案の決定を受け塗装の作業体験を行う / 全員参加

表 - 1. 立川市立第六小学校景観色彩教育プログラム

3. 景観色彩教育ワークショップの取り組み

(1) 第1ステップ 講義

実施 平成27年10月22日 45分

① 概要

スライドを用い、色の見え方、色の組み合わせる事例紹介、景観の中での色彩のルールの解説。

② 実施状況

補色残像実験で色の見え方の体験

マンセルの三属性、トーンのあかるいーくらいはでーじみ

配色テクニックはわかりにくいと判断し、色は規則やルールに従うときれいに見えることがあると説明。

まとまる性質と対比の性質を使った、色の組み合わせのなじみ型と対比型の紹介。対比型はアクセントとして少量、また動くものにふさわしい。

まちの中、建物や花壇での色の使われ方事例を紹介し、軽重感の建物への応用など規則やルールで使うポイントの紹介

建物や看板の色を決める時にすること

- a. 自分たちの特徴を考える
- b. まわりの色はどうなっているか調べる
- c. 自然の色なども、なにか特徴があるか
- d. まわりと自分たちの特徴をキレイに見えるように組み合わせる

(2)第2ステップ ワークショップ

実施 平成 27 年 10 月 22 日 45 分

① 概要

校門の図を示した用紙を準備し、そこに色鉛筆で色を塗りデザイン案を作成する。

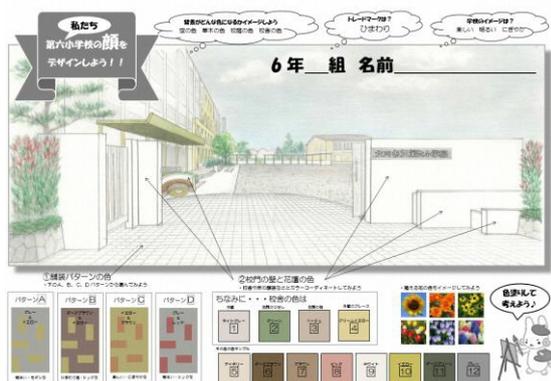


図 - 1. 使用した用紙



写真 - 1. 用いた教材—色鉛筆

②実施状況

塗装見本及び舗道ブロックの現物による色見本サンプルを用意し、実際の様子を想像しながら考えてもらうこととした。考えるヒントとして、小学校のシンボルを重視する、校舎の改装後の色に関連付けるなどの視点から考えた例を参考例として示すが、どれをよいとすることはなく、そこから先は自分たちで考えることとした。使用する色彩教材は、日常的に使い慣れている色鉛筆を用い、特別な色の材料等は準備しなかった。

(3)第3ステップ 実施案選定

実施 平成 27 年 10 月 30 日 45 分

①概要

主とした色ごとに代表的なデザイン案を4点にとりまとめ、その中から実施案を投票で選定

(ア) 実施状況

使用した主たる色ごとにとりまとめ4つの案として塗った状態のスライド作成。(白系、黄色系、茶色系、グレー系) それらについて意見交換し、投票によって一番得票数の多かったデザインを自分たちで実施する案として決定。

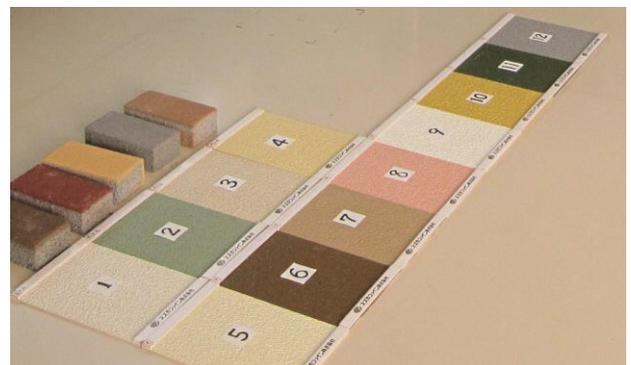


写真 - 2. 準備した舗装ブロック及び塗装の色見本



写真—3
塗装見本と舗装ブロック見本を実際に組み合わせて判断する

(4)第4ステップ 塗装体験
実施 平成28年3月6日 90分

① 概要

自分たちで選んだ色彩で学校正門の塗装体験を行う。卒業式前に完成するような日程とした。

② 実施状況

自分たちで選んだ色彩で、塗料を用い実際に塗装体験を行う。手を汚さないようにする準備などを行い、全員が参加する形で行うことをポイントとした。塗装は校門部分である。舗装部分についてはすでに選択された案に従って整備実施済み。ロールの使い方の説明を受け、全員が塗装体験を行った。

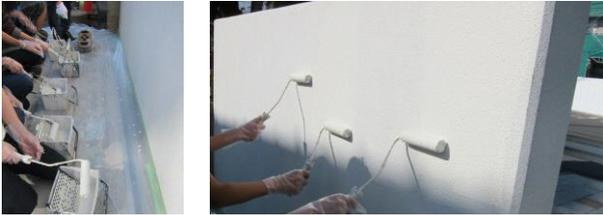


写真-4. ローラーで塗装体験

4. 小学生への対応

色の仕組みなどの基本は一般の内容と同様にするが、見せ方などに工夫を加えた。

①小学生がみて楽しい表現



図-2. 花や虫、動物、あるいはキャラクターなど小学生が親しみを持つモチーフなどで楽しい表現

②短い時間でわかりやすいように代表的な色だけに絞った解説を心掛ける

③集中力が途切れないよう体験・体感型の解説とする。

④塗装見本、舗装材見本は現物サンプルを用いて、実感してもらいながら考えるようにする。

⑤今回は、色に慣れることを目標として、一から考えるのではなく、色彩のアイディアの方向性を想定し準備した色見本から選ぶ方式をとった。

⑥考えるヒントとして、周辺との関連、建物、周辺歩道、学校としての独自性など、「景観」としての色の考え方を伝える。

5. まとめ

色彩のみならず「景観」を身近なものとして学び、生活の一部として積極的に関わっていくためには、小学生くらいの年齢で考え方や手法に触れることができれば、将来のまちづくりに貢献するであろう。今回は準備された見本から選ぶという簡便な方法をとったが、このような見本を組み合わせながら実感しながらの取り組みであれば、周囲の建物や小学校の独自性など、複数の視点を考察しながら考えをまとめるという作業は小学生高学年にとっては十分可能な内容といえる。

建築学会東北支部八戸工業大学の研究にみられる景観教育は総合的な取り組みを行っているが、その中で、小学生たちはものの見え方や色について関心を持っているが、景観にとって重要とは考えていないというアンケート結果が出されている。(表-1)

子供は色彩には関心をもちやすいが、景観と関連付けて解説する方法論や副読本が整備されていない現状がある。そのためにも、色彩分野から景観教育への提案が多くなされていくことが重要と思われ、具体的方法論の提案が欠かせない。

学習項目	学習内容	アンケート		感想文の内容	人間街並みで取り入れた内容	
		児童が興味をもった内容	景観で重用だと思ふもの			
副読本の学習内容	景観って何だろう			◎	●	
	景観の意味 県内の景観			◎	●	
八戸工業大学の学習内容	人間の眼と色・街の見え方	○		◎	●	
	世界の景観(UD)	世界の街並み	○	□	◎	●
		UD(やさしい景観) 自然と調和した景観	○	□	◎	●
	雪のある景観		□	◎	●	
	地域にあった学習内容	児童に身近な景観		□	◎	●
	人間街並み	学習のまとめ			◎	

○ 景観教育で評価が高い内容、□ 景観の要素で重要だと思ふもの、◎ 感想文に書かれていた内容、● 人間街並みで取り入れられた内容

表-2 景観教育の内容と教育方法の課題 八戸工業大学

6. 市民からの評価

平成 28 年 2 月 5 日 市民向け景観セミナーを実施し、その中で小学校の取り組みを紹介した。まだ進行中で 3 月に終了と報告した。それに対してアンケート回答で何人かの人から評価をいただいた。

- ・最後の小学校の外装のお話しに感動しました。完成を見に行こう！と思います
- ・小学校 6 年生への取り組みを聞いて、今後が楽しみです。
- ・立川が小学校でもこういう教育をやっていることは、ひとつづくりとして、とても素晴らしい試みだと思う。戦略的街作りは地域の自信につながると思う。

市民も具体的なものであると関心を持ちやすいといえそうである。

7. 実施の課題

(1) 協力体制

今回の実施主体は立川市都市景観課まちづくり景観担当であり、小学校の校長、6 年生担当教員の協力のもと、卒業記念の特別講座として成果が形に残ることで実施できた。舗道の改修については近隣商店街で決めた舗道デザインの一部を変更することに同意を得られた。全てが、第六小学校に向けての個別対応であったため、成果が挙げられたといえる。

景観形成のためには地域性や立地などその個別の条件に合わせた対応が重要であることを学

校関係者及び参加した小学生は実感できたかと思われるが、担当者の準備の能力、色彩検討の実地体験の豊富さが必要となり、多くの地域や小学校で実施するのは困難かもしれない。さらに作業体験などは改修時という機会と工事関係者の協力もあった。このようなタイミングをうまく活用するのも容易ではない。

但し、色のルールを知って考える、実物サンプルで選ぶ、自分たちで考えて互いに選ぶというステップは応用可能であろうと思われる。配色テクニックの詳しい方法論などは困難かもしれないが、何をヒントに色を考えていくかについて、及び色を組み合わせる能力については、小学生高学年ともなると成人に劣らず、応用できる能力は優れているといえそうである。具体的事例に結び付けてのセミナーの実施を模索していくことを推奨したい。

謝辞

企画・実施・他団体との粘り強い交渉を行い、景観色彩教育の一つとして具体的な成果をあげた立川市都市景観課まちづくり景観担当の皆様には敬意を表するとともに、貴重なプロジェクトに参加させていただき景観色彩へ広く関心を持っていただくことを再考する機会を与えてくださったことに感謝を捧げます。

参考文献

- 1) 小野里元秀 月舘敏栄 青森県の小学4年生を対象とした早期景観教育の内容と方法に関する研究 (2009) 日本建築学会東北支部



写真-4 立川市立第六小学校の改修前後 歩道部分も学校用に改修されている。